

# カブ (アブラナ科)

| 3月   | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
| タネまき | 収穫 |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |

カブは、ダイコンより古く日本に渡来した野菜で、長年の間に日本各地で成立した色彩、形ともに豊かな地方的品種があり、その地方の特産になっているものや、地方品種の改良種があります。家庭菜園で作るなら、ぜひとも1回はその地方の特産品を作ってみたいものです。

栽培期間は短く、作りやすい野菜です。

## 品 種

〔小カブ〕 金町小カブ、金町系冬用種、金町系春用種

〔大・中カブ〕 聖護院カブ、天王寺カブ、博多カブ、尾張カブ

## 栽 培 ポ イ ン ト

カブの生育適温は15～20度で、冷涼な気候を好みますから、春と秋の栽培に適しています。ただし、低温にあうと花芽ができて、とう立ちするようになります。この性質は品種や系統によって差が大きいため、栽培時期にあった品種を選ぶように注意します。

土は特別に選ばませんが、耕土の深い、排水のよい畑が最良です。乾燥すると根がすなおに肥大しません。水やりの効果は大きいのですが、土中の水分の激変は裂根の原因となることが多いので、敷きわらや中耕、土寄せなどを行って、土壌水分の変化を少なくしてやります。

間引きは何回にも分けて、少しずつ株間を広げてゆきます。間引きの手間を惜しんで早くから株間をとりすぎるのも、裂根の原因になるからです。また、肥料切れも裂根の一因です。

## 栄 養

根には、わずかですが良質のタンパク質を含み、葉にはビタミンB<sub>1</sub>、B<sub>2</sub>、C、カロチンなどを多量に含んでいます。

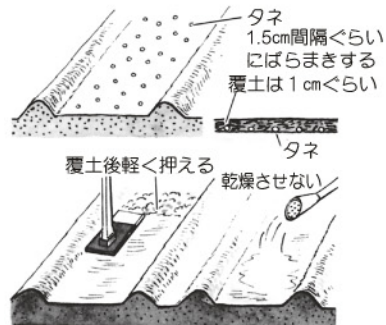
### 1 畑の準備

畑には石灰をまいて耕しておき、タネまきの1週間前に元肥えをまいて土をよく混ぜる。そろってよく発芽させるには、土をこまかく耕しておく。



### 2 タネまき

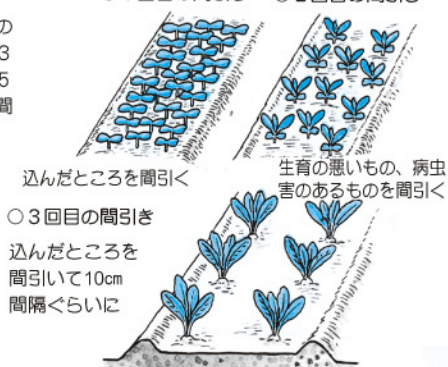
くわ幅の浅いまき溝を切って、溝幅いっぱいタネをまき、覆土したら、土を軽くおさえておく。畑が乾燥しているときはたっぷり水をやって、土を湿らせておいてからまくとよい。



### 3 間 引 き

発芽後、双葉のときと本場2～3枚のころ、本場5～6枚のころに間引きする。

○1回目の間引き ○2回目の間引き



### 4 追肥・土寄せ

2回目、3回目の間引きのあとには、追肥と土寄せも行う。追肥は化成肥料でよいが、乾燥しているときは水やりをかねて液肥を施すとよい。

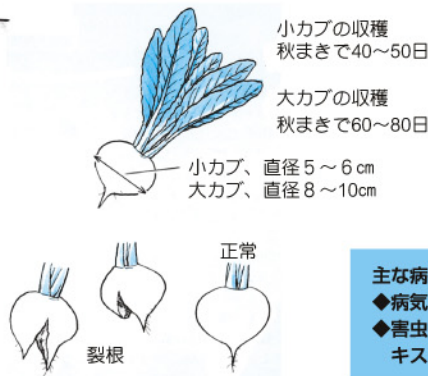


### 5 収 穫

収穫の目安は、コカブは直径5～6cm、大カブは8～10cmぐらい。大きくなったものから順に収穫する。それ以下でも、形のできあがったあとは肥大しないので、育ちのよくないものでも収穫する。とり遅れるとすが入ったり、割れたりする。

裂根

土の水分条件の変化が大きいとき、特に低温期から暖かくなりかけたときに多い。収穫が遅れても割れやすくなる。



主な病害虫

- ◆病気 ベと病、白斑病
- ◆害虫 アブラムシ、アオムシ、キスジノミハムシ